

## 調布飛行場で SAF を使用した定期旅客便を運航

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、2022年10月31日付で東京都と締結した「バイオ燃料導入促進事業に係る協定」<sup>※1</sup>に基づき、2023年3月30日と31日の二日間、都営空港調布飛行場にて、当社が製造・販売するバイオジェット燃料（以下「SAF<sup>※2</sup>」）「サステオ」を使用した定期旅客便を運航します。定期旅客便に SAF「サステオ」が使用されるのは今回が初となります。

※1 2022年11月18日ニュースリリース：<https://www.euglena.jp/news/20221118-2/>

※2 Sustainable Aviation Fuel の略称で、持続可能な航空燃料のことを指します



新中央航空株式会社の定期旅客便に SAF を給油している様子

当社と東京都は、2022年10月31日付で、環境にやさしいバイオ燃料の活用推進と普及を目的とした「バイオ燃料導入促進事業に係る協定」を締結し、本協定に基づき、2023年3月10日より調布飛行場のジェット燃料共同給油設備へ SAF の供給を開始しています<sup>※3</sup>。今回、調布と伊豆諸島の大島、新島、神津島、三宅島を結ぶ路線を運航する新中央航空株式会社の定期旅客便に SAF を使用します。

※3 2023年3月10日ニュースリリース：<https://www.euglena.jp/news/20230310-2/>

今回当社が供給した SAF は、原料に使用済みの食用油と微細藻類ユーグレナから抽出されたユーグレナ油脂等を使用して製造し、従来の石油系ジェット燃料と混合した環境負荷の低い燃料で、ASTM D7566 規格<sup>※4</sup>に準拠しています。SAF は、燃料の燃焼段階では CO<sub>2</sub> を排出しますが、使用済みの食用油の原材料である植物とユーグレナはどちらも成長過程で光合成によって CO<sub>2</sub> を吸収するため、燃料を使用する際の CO<sub>2</sub> の排出量が実質的にプラスマイナスゼロとなる、カーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。

※4 当社が微細藻類や使用済み食用油などの生物系油脂を原料として BIC プロセスにより製造した純バイオジェット燃料は、ASTM International（旧 米国材料試験協会 American Society for Testing and Materials）が定める国際規格である ASTM D7566 Annex 6 に準拠しています

## <概要>

### ■実施期間

- ・ 3月30日（木曜日）と31日（金曜日）の二日間

### ■実施場所

- ・ 都営空港調布飛行場（調布市西町）

### ■運航事業者

- ・ 新中央航空株式会社

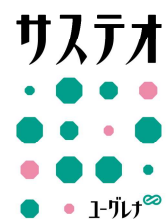
### ■給油予定路線

- ・ 調布～大島、調布～新島、調布～神津島、調布～三宅島の24便を予定
- ※天候やその他、やむをえない事由により実施できない場合があります。

当社は、持続可能な社会の実現に向けて環境負荷低減に貢献するため、今後も次世代バイオ燃料「サステオ」の普及を目指します。

## <「サステオ」について>

株式会社ユーグレナが製造・販売するバイオジェット燃料（SAF）および次世代バイオディーゼル燃料で、使用済み食用油や微細藻類ユーグレナから抽出した油など、食料との競合や森林破壊といった問題を起こさない持続可能性に優れたバイオマス原料からつくられており、バスや船舶、飛行機といった陸・海・空のモビリティにて活用されています。分子構造が石油由来の燃料と同等であり、既存の内燃機関に負荷をかけることなく使用できます。



## <株式会社ユーグレナについて>

2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナの食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。

<https://euglena.jp>